

第9回「防潮堤を勉強する会」要旨

日時：2012年9月14日（金）18時から20時30分 場所 健康管理センターすこやか

1. 1 講演 「砂浜地形変化メカニズムと防潮堤の影響」

講師 東北大学災害科学国際研究所 准教授 有働恵子 氏

- ・波や風などの外力により砂が移動し、堆積や浸食が起こる。
- ・津波被災後の継続的なモニタリングが必要。
- ・津波以外のハザードも考慮し、海岸浸食への対策を練る必要がある。
- ・砂浜を保つためには土地利用を考えていかなければならない。

1. 2 質疑からわかったこと

- ・砂浜の浸食は原因を取り除かない限り食い止められない。
- ・養浜のみによる砂浜は難しく、基本的には構造物とセットにして砂浜を安定させる。

2. 1 講演 「奥尻町に学ぶ、防潮堤建設の経緯とその後の影響」

講師 北海道大学 地震火山研究観測センター 助教 定池祐季 氏

- ・復興へのスピードが早く、1年以内に高台移転、防潮堤整備事業計画が決定し、3年半ほどで住宅新築ほぼ終了し、仮設住宅がなくなり、4年半後に「完全復興宣言」を提示した。
- ・当時の町長が町民の心をつかみながらもほとんどの人が納得するような形で復興を進めていった。
- ・防潮堤に対する関心は、集落や居住の再建、高台移転の後であった。また、高さに関して住民の意見はほぼ関与しておらず、完成した後に改めてその高さを感じた方も多い。
- ・全体として防潮堤反対の意見も多いが、現在は慣れてしまっている部分もある。

2. 2 質疑からわかったこと

- ・復興特需のうちから特需後のための先行投資を行い、自分たちの“売り”を作ってきた人たちは成功している。
- ・復興基金は、後々の維持管理まで目を向けて考えないと財政が厳しくなる。
- ・人口の減少については、震災の影響もあるが社会の情勢の変化とともに若者の動向が変わってきているという側面もある。

<次回 第10回「防潮堤を勉強する会」> 9月18日（火）18時～ ワンテン大ホール

●テーマ：「防潮堤とまちづくり、今後の進め方」 講師 東北大学 准教授 平野勝也 氏

